

## 研究開発の 背景・目標

### 背景

現在、自然言語処理技術を基盤とするAIスピーカに大きな注目が寄せられており、当該市場の国際競争が激化している。一刻も早く、海外の大手ICT企業との差別化を図りながら、我が国の自然言語処理技術の社会実装を加速化させ、貴重な日本語データを我が国の手元で活かすような仕組みを構築する必要がある。また、多くのユーザが本システムを利用することにより、大規模な日本語データが収集されることが期待される。

### 政策目標(アウトカム目標)

対話エージェント技術の開発コミュニティの構築等を促しつつ、我が国の自然言語処理技術の社会実装を促進するとともに、幅広い社会課題の解決や社会貢献に資する。

### 研究開発目標(アウトプット目標)

世界的に認められた「おもてなし」に代表される日本の対人関係観を反映した「よりそい」型対話を実現するために必要となる高度対話エージェント技術を確立する。

## 技術課題

### ①高度対話エージェント技術の確立

対話エージェント技術の普及を促進する観点からも、対話エージェントの開発が容易に実施できるような環境を整備する必要がある。そこで、高度対話エージェントを開発・利用するための共通基盤技術の研究開発を進め、「よりそい」型対話を実現可能な高度対話エージェント技術を確立する。

### ②実証用高度対話エージェントの開発・実証

研究開発成果を普及させるためのベストプラクティスを蓄積・公開することを目的として、高度対話エージェント技術を活用して分野特化型の実証用高度対話エージェントを開発し、将来的な実用化を視野に入れた実証実験を実施する。

## 到達目標

①高度対話エージェント技術の確立  
高度対話エージェントを開発・利用するための共通基盤技術として必要となる要素技術を特定し、「よりそい」型対話を実現する高度対話エージェント技術を確立する

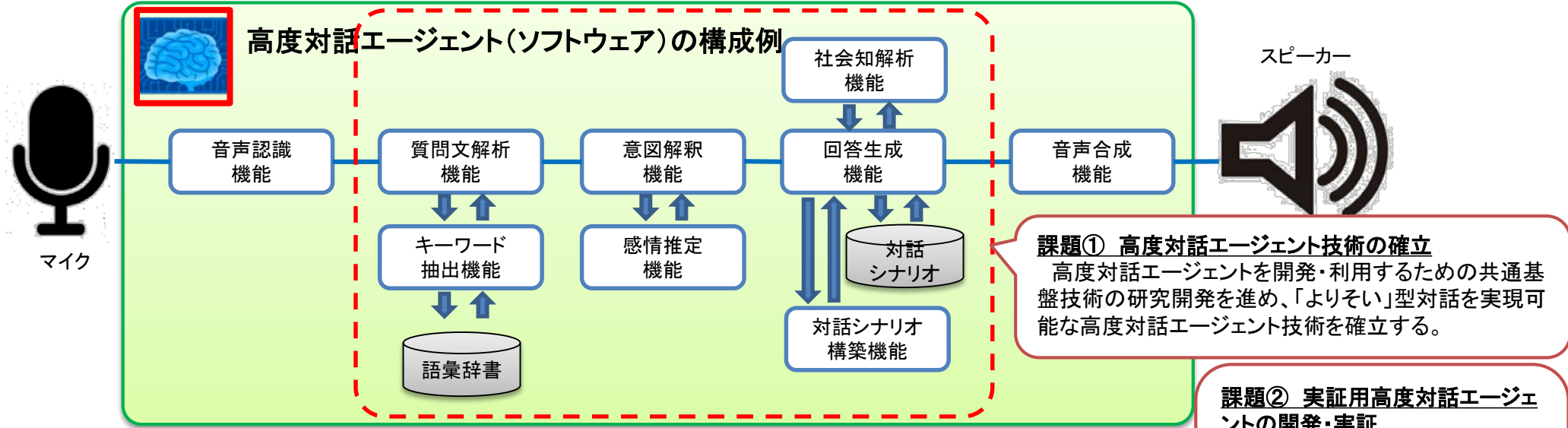
### ②実証用高度対話エージェントの開発・実証

分野特化型の実証用高度対話エージェントを少なくとも1分野について開発し、実証終了後の実用化を視野に入れた実証実験を実施する。

### ③開発成果普及展開のための取組

開発する技術のうち、核となる技術については、少なくとも要素技術単位でも利用可能となるようなインタフェース(API)等を備える形でオープン化して一般に公開するとともに、開発成果の普及展開に資するハンズオンやハッカソン等のイベントを実施する。

# (参考) 高度対話エージェント技術の研究開発・実証



**課題① 高度対話エージェント技術の確立**  
 高度対話エージェントを開発・利用するための共通基盤技術の研究開発を進め、「よりそい」型対話を実現可能な高度対話エージェント技術を確立する。

**課題② 実証用高度対話エージェントの開発・実証**  
 高度対話エージェント技術を活用して分野特化型の実証用高度対話エージェントを開発し、将来的な実用化を視野に入れた実証実験を実施する。

開発成果のオープン化により、本事業を呼び水とした民間企業主導の開発コミュニティ創出

対話技術のプラットフォームとして活用され、様々なデバイスに実装

1. **店頭でアドバイスをするAIスピーカー**  
 ついさっき、〇月〇日発の格安プランにキャンセルが出ていますよ  
 格安で〇〇に行きたいんですが...

2. **老人によりそう介護ロボット**  
 ちょっとお医者さんに電話してみましょね

3. **好みの商品を紹介するスマホ**  
 お好きそうな商品が発売されてますよ!

4. **運転者をサポートする自動車**  
 そこにコンビニがあるので、休憩しませんか?

5. **労働者を支援する業務システム**  
 このアラームが出たときは緑のボタンを押して下さい

所要経費 2.0億円(平成30年度)

研究開発期間 平成30年度～平成32年度

# アウトカム目標の達成に向けた総務省の取組について

## 政策目標の達成に向けた取組方針

### ○研究開発期間中

研究開発成果を広く成果展開する観点から、対話エージェント技術に係る国内及び国外の動向を調査し、実用化及び民間主導による対話エージェント技術の開発コミュニティの構築等を促すための取組を推進する。

受託者が設置する研究開発運営委員会において、政策意図を適切に反映させるとともに、ビジネスプロデューサ及び総合ビジネスプロデューサをはじめ、学識経験者や有識者の助言をもとに全体の方針を調整しながら、研究開発を推進する。

研究開発推進のため、関連施策や情報通信研究機構との連携を図るとともに、政策目標の早期実現を図るために必要となる予算の獲得を検討する。

### ○研究開発期間終了後

研究開発成果展開の機会を増やすために、ニーズとシーズのマッチングを推進する。具体的には、受託者及び対話エージェント技術の開発コミュニティと連携しながら、開発成果を活用した民間企業等によるオープンイノベーション活動を推進する。

研究開発終了後に実施する終了評価、追跡調査・評価において、受託者等に製品化等の成果展開状況を確認するとともに、学識経験者や有識者の助言を得ながら、実用化や対話エージェント技術の開発コミュニティの活性化を目指した取組を推進する。